

Report

能登半島派遣報告

会場

輪島商工会議所

応援経営支援員

当所支援グループ

森島 悠



この度、11月4日から7日までの期間、輪島商工会議所にて実施された応援出張に参加してまいりました。今年の1月に同じ応援出張で輪島市を訪れて以来、2度目の訪問となります。

前回訪れた際には、まだ倒壊・半壊した家屋の解体工事が途上であり、痛々しい光景が多く残されていました。しかし、今回の訪問では、その風景が大きく様変わりしていました。

市内の各所では、解体工事がほぼ完了し、更地が目立っています。その一方で、建物を補修する作業や、新築工事に取り掛かっている光景も散見され、本格的な復興への歩みが進んでいることを実感しました。

しかし、解体が進んだことで更地が増え、街全体が綺麗になった反面、どこか寂しさも感じる風景となっています。特に印象的だったのは、かつて賑わいの中心地であった輪島朝市の場所です。一面の更地となり、立ち入り禁止の規制線が張られたその光景は、テレビなどで見た賑わいが嘘のようであり、改めて震災の甚大さを思い知らされました。

残念ながら、街にはまだかつての輪島の賑わいを取り戻すには遠い状況であり、他地域からの継続的な支援の必要性を強く感じました。

今回の出張で印象に残ったのは、遠方・広島から遠征して従事されている建築業者の方からのご相談です。市内の個人の方から新築を受注したものの、発注された方が高齢であるため、住宅ローンの審査が通らなかったり、あるいは引き渡し前に亡くなられてしまい、資金難に陥っているという深刻なものでした。

公的資金による補助にも限界がある部分があり、被災された方の中に高齢者が多いという、今回の震災復興における根深い課題を改めて痛感させられました。

私は震災前に輪島を訪れたことがなかったのですが、この美しい街並みが完全に復興し、かつての活気を取り戻した際には、ぜひ観光客として再び訪れたいと強く思いました。

被災地の復興は、単に建物を建てるだけでなく、様々な制度的な課題や、被災された方々の生活再建に深く関わる問題です。今回の経験を活かし、引き続き日頃の支援のあり方を考えてまいりたいと思います。